

学位論文及び審査結果の要旨

横浜国立大学

| | |
|---------|---|
| 氏名 | 中村美安子 |
| 学位の種類 | 博士（工学） |
| 学位記番号 | 都市博甲第2079号 |
| 学位授与年月日 | 2019年3月26日 |
| 学位授与の根拠 | 学位規則（昭和28年4月1日文部省令第9号）第4条第1項及び横浜国立大学学位規則第5条第1項 |
| 学府・専攻名 | 都市イノベーション学府 都市イノベーション専攻 |
| 学位論文題目 | 住民福祉活動拠点確保における空き家活用に関する研究 |
| 論文審査委員 | 主査 横浜国立大学 教授 大原一興 横浜国立大学 教授 佐土原聡 横浜国立大学 教授 高見沢実 横浜国立大学 教授 大野敏 横浜国立大学 准教授 藤岡泰寛 |

論文及び審査結果の要旨

中村美安子氏の論文は、人口の高齢化が進む我が国において、地域の住民が地区社会福祉協議会等の支援を受けながら自発的に生活支援活動をおこなうための拠点施設「住民福祉活動拠点」を整備運営する方法として、都市部における空き家を有効に利活用して拠点として整備する方法とその可能性や意義について考察するものである。

具体的な論文構成は、序論と4章からなる。

序論は、研究の社会的背景と本研究の目的について、近年の地域包括ケアの動向とそのため生活支援を担う活動拠点に関する理念と実際、既往研究を整理し、またそれによる本研究の位置づけをおこなっている。

第1章「生活支援にとりくむための活動拠点整備の条件把握」では、全国の市町村社会福祉協議会にむけて実態把握のため実施した全国調査の分析とそれに対する考察を報告し、拠点確保のための維持費や安全面、空き家情報の獲得などの全国的な現状の課題を明らかにし、自ら主体的な生活支援活動を推進する上で空き家活用の有効性についても指摘している。

第2章「活動拠点となりうる地域資源情報の一つの有効な可能性の明確化」では、空き家資源の情報源の一つとしての成年後見人に対して調査をおこない、司法書士、社会福祉士、行政書士、弁護士が管理する空き家について考察している。これまで取り上げられていなかった分野における新たな知見であり、この分野の管理する空き家の社会的、福祉的利活用の可能性が一定程度ある実態を明らかにした。

第3章「具体事例から見た活動と空き家空間の整合性の実態」では、先行的な具体事例の神奈川県茅ヶ崎市における地区社協地区ボランティアセンターに対して具体的な施設活動と運営の実態調査をおこない、具体的な空き家獲得までの経緯やそのプロセスにおける様々な課題、拠点整備のための空間的条件と地域内に存在するその意義について明らかにした。

第4章は、第1章から第3章で報告した調査結果と考察を踏まえ、最終的なまとめとして結論を論じている。

以上のように、中村美安子氏の論文は、これからの地域包括ケアにおける拠点施設整備の重要なひとつの方向性を示唆するものとして注目され、建築計画学研究の手法において、物理的環境条件に加えて地域の支援活動そのものの成立条件を総合的に捉える地域工学的な考察をおこなっていることから、博士（工学）の学位請求論文として十分な価値を持つと認める。なお、iThenticateによるチェックを行ったが論文剽窃等の問題は認められなかった。

平成31年2月7日午後5時15分より約1時間、建築学棟1階大会議室において、審査委員全員出席の下に、中村美安子氏の学位論文発表会を公聴会として開催し、学位論文についての口頭発表および質疑応答がおこなわれた。同午後6時15分より同棟小会議室において審査委員会を開催し慎重審議の結果、若干の指摘事項を除いて、本論文の内容は博士

(工学)の学位論文として十分な内容を有していることを審査委員全員一致で確認し合格と判定した。主な指摘事項は、空き家活用による安全性の担保について建築的側面からの言及、公的負担や施策・計画的意義に関する考察、空き家情報についての体系的把握などを補足することである。質疑応答の内容から、関連分野の専門的知見や分析能力などを確認し、学位論文に関連する施設計画に関する建築学の分野について博士(工学)の学位を得るにふさわしい学力を有すると判定した。修了に必要な単位はすでに取得済みである。

また、外国語の能力に関しては、本論文の要旨および査読論文において英文概要を執筆していることなどから、英語能力に関する学力は十分であることを認めた。

この論文の内容の一部を、査読付き論文2編 1) 中村美安子, 大原一興, 藤岡泰寛、空き家活用による住民福祉活動拠点に関する研究—地区社会福祉協議会に関する全国調査から、神奈川県立保健福祉大学誌、15(1) 29-37、2018.3および2) 中村美安子, 大原一興, 藤岡泰寛、空き家活用による住民福祉活動拠点に関する研究—生活支援に取り組む住民福祉活動拠点に適した空き家の条件、日本建築学会計画系論文集 2019.4、第758号掲載決定 として発表しており、1編以上の査読論文の学位取得条件を満たしている。

以上により、中村美安子氏の最終試験は合格であると判定した。

注 論文及び審査結果の要旨欄に不足が生じる場合には、同欄の様式に準じ裏面又は別紙によること。